

9月報(2025年) 萌 カトリック福山教会



福山教会活動テーマ：

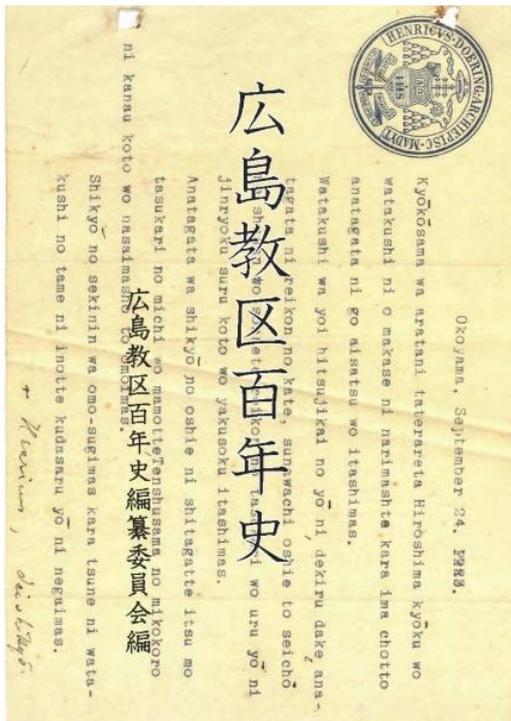
「喜びをもっていのちをもたらす福音を社会に伝えよう」

〒720-0808 福山市昭和町7-26

☎【084】923-0614 FAX【084】923-0615

e-mail : fuku-ch@ktd.biglobe.ne.jp

【教区の日】



広島教区百年史ができました。

一冊 1980円 是非ご覧になってください。



金銀祝おめでとうございます。

玉島教会信者さんからのプレゼント半纏

【敬老会おめでとうございます】今年も楽しいひと時を有難うございました♡





90歳以上の方へ
賞状
ミカエル神父様の
霊名のお祝





援助マリア修道会 2025 年度黙想会が 8 月 17 日～26 日に宝塚市売布黙想の家であり、今年度からスピラン会の 3 名が参加させていただきました。

10 日間のうち 8 日間の沈黙期間は『イグナチオの霊操』で、御指導頂いたのは『ラウダート・シ』の翻訳者でもある瀬本神父様でした。

8 日間をかけて、天地創造から始まり、イエスの御降誕から御復活・御昇天までを観想しました。初日の霊操への導入の言葉『人間が造られたのは、私たちの主である神を賛美し、敬い、仕えるためであり、それによって自らの靈魂を救うためである。また、地上の他のものが造られたのは、人間のためであり、人間が造られた目的を追求するのに助けとなるためである。それゆえ、人間は、その目的のために助けとなる限りでそれらを用い、その目的の妨げとなる限りでそれらから離れなければならない』

毎日のミサの中でも繰り返し伝えてくださったこの言葉で、霊操の識別という方向が見えてきました。全てが初めての体験なのでスタート 3 日間は霊操ならぬ迷走をして、神父様は苦笑いを隠していらしたと思うのですが、否定することなく丁寧に共感をもって御指導くださいました。15 分間の面接の中で、自分の囚われや傾向がはっきり見えてきたのも助けになりました。沈黙の中で、私は十字架上のイエスの苦しむ御顔を見続け、「今まで私はイエスさまに何をしてあげたのか？今何をしているのか？これから何をしようとしているのか？」を問い続けました。同時にマリア様の苦悶が身に迫ってきました。「あゝ、私はイエス様の笑顔が見たい！」と切望しました。

あまりにも非日常の 10 日間だったのでいまだに整理できていないが、感覚として変化したところは、今の自分の立ち位置と状態が確認できるようになったことです

①今ここに“居る”ことが静かです。以前の私は風の海面のように一見静かだけど、水面下では必死に脚をばたつかせていました。

②今ここに“在る”ことが喜びです。最終日の朝食時に、不意に訳もなく溢れ出る涙が止まりませんでした。不思議なことに、泣きながらも「美味しい」と口は動いていました。まるで赤子のように泣きながら笑いました。この歳でこのような豊かなお恵をいただけたのは、ご指導くださった瀬本神父様、清潔な環境と美味しいお食事を整えてくださった御受難会のシスター、暖かく受け入れ支えてくださった援助マリア会のシスターたちのお陰だと感謝の気持ちで溢れています。

この拙い文を読んでくださった福山教会信徒の皆様へ
環境が許す限りにおいて、ぜひ黙想会などの行事に参加して、イエス様と親しく会話をし、神様の愛の働きを体験してくださることを願っております。

【竹谷さんを偲んで】

内藤 悦子



8月23日の夜に竹谷さんの訃報の連絡を受けました。あまりにも突然のことで驚きました。山ゆり会の発足から一緒にやり始め、ミサに与る前に早めに来て準備をして貰っていました。ソフトボール大会の豚汁作りやカレー作りにも気持ちよく手伝ってもらいました。竹谷さんと私が親しくなったのは母親が聖母園という介護施設に入居していたということです。竹谷さんのお母さんは施設内の聖堂で葬儀をしてもらい、その後、妹さんがボランティアで聖母園でカットをされていて母の事を記憶にあると竹谷さんから聞いていました。葬儀の時 妹さんにお礼が言えて良かったです。

竹谷さんは神父様達とも親しくされていて、ギャリー神父様、パトリック神父に連絡すると彼女の為にミサを捧げますと返事が来ました。



前田万葉枢機卿様と同じ仲知教会出身でお父様の教え子だったと聞いています。内緒の話ですが枢機卿様が司教として福山教会へ初訪問された時、賄いの私へ竹谷さんから五島の従兄弟が刺身を送って来たけどと電話がありました。司教様に伝えると、すぐに食べたいから受け取って来て欲しいと頼まれ自宅まで受け取りに行き、すぐに切って出しました。司教様は美味しい！と満足された嬉しいような顔を今も覚えています。「司教様、サザエもありますが司教館へお持ち帰りになりますか？」と尋ねると『いや今食べたい！』

と言われつぼ焼きにしました。

竹谷さんの気配りには頭が下がります。

余談ですが私の孫も良く可愛がってもらいました。おばちゃんとジュース買いに行こうかと誘うとおばちゃん 俺を連れて行ったら逮捕されるよ！と言ったそうです。当時孫は保育所で知らない人にはついて行かないように！と指導を受けていたようです。あとで聞いて謝りましたが笑い話よ！と言ってもらいました。

意見の食い違いなどもありましたが 旅行へ行ったりランチへ行ったり楽しい思い出がよみがえります。

12月12日の竹谷さんの誕生日にメールを送ると電話がかかって来ていました。この6月2日に体調伺いの電話が最後になるとは神様以外誰が想像できたでしょうか？寂しい時もあったでしょうが竹谷さんのことは忘れません。

安らかに眠り下さい。

【友の思い出】

夫津木 敬子

『目を覚ましていなさい。人の子は突然奪われる時が来る』

先日、姉妹のように親しかった友が亡くなりました。

突然の訃報に信じることが出来ず呆然とするばかりでした。時が過ぎ悲しみと寂しさが身にしみてきます。

長崎県の五島列島で育ち、幼い時から厳しい宗教教育を学び御ミサ中には必ずベールを身に着け祈っていました。

竹谷さんは、毎週日曜日に教会に来ることを楽しみにして、神父様への信頼と友達に会える喜びでとても幸せそうでした。元気な頃は、雨の日も風の日も朝早くからコーヒーショップの準備をして和やかに明るく皆さんに接していた姿は今も忘れることが出来ません。ありがとう。

人は一人では生きて行けない。人と人とのつながりを大切にしていかなければとつくづく感じさせられました。

私もアンナ会にお世話になっていた時期にいろいろな人と出会い、優しくった友達との別れ、残された者がどのように過ごし、生きて行く力、人生の中で自分を見つめ直す大切な期間を与えられた様な気がします。

今は年輪を重ね、自分が行きたい所に行けず、やりたい事が出来ず、地区の方のお世話になりながら日曜日の御ミサに与れることに心から感謝しています。

一日一日を大切に感謝を忘れずに



【敬老の日を迎えて】

森淵 美代子

福山教会の皆さん、朝夕はだいぶ涼しくなりましたが、まだ日中は暑いですね。

先日は、私達老人のため前日から、宮田さん夫妻をはじめ他のスタッフの方々が大変ご苦労くださって、用意して頂き楽しい敬老会をして頂き心から感謝します。本当に有難うございました。おいしい料理も沢山作って頂き、神父様をはじめ楽しい歌や踊りまたお琴やオカリナ、ギターなど忙しい中練習も大変だったと思います。

私達年寄りのため大事な時間を使ってくださり有難うございました。

宮田さん夫婦は前日から教会に泊まり込みで支度してくださったと聞きました。いつも美味しいお料理、そしてテーブルの支度また後片付けと、若い人達をまとめてくださり教会の行事の

度本当にお世話かけております。これからもお体に十分気を付けてください。また何事かあるたびお世話かけると思いますがどうかよろしく申し上げます。

そして、私事です、私は夜、仕事帰りによく車の窓を開けて走ります。セミや虫達は良く季節を知っていて、セミの音が聞こえなくなると夜の虫が鳴きはじめ、今はスズ虫、マツ虫、コーロギなど日に日に賑やかに鳴いています。私は年をとって、何々と忘れがちなのに虫たちはちゃんと自分の出番を分かっているんだなあと感心する。今日この頃です。

この度、お世話してくださった皆さん、本当に有難うございました。



【ブラザー阿部のみ言葉のおすそわけ】～マルコ福音書 6 章～

『王は、非常に心を痛めたが、誓った言葉ではあるし、また客の手前少女の願いを退けたくなかった。』今日は、この言葉を考えてみました。

ヘロデは、内心ヨハネを信じ、正しい人と分かっているながら、自分のつまらないプライドのために、洗礼者ヨハネの殉教を実現させてしまったのです。

聖人には、いろいろな殉教がありますが、このような殉教は本当にまれです。

私たちの、毎日の生活を振り返ってみましょう。ヘロデのようなことは無いにしても、日々の生活で、心当たりはないでしょうか。

ヘロデの場合は、ヨハネの殉教という歴史的な出来事になったのですが…。

私たちは、毎日小さな判断に直面します。どちらを取ろうか、選ぼうか、どちらが大切なことか、どちらが神さまに喜ばれる事か…。小さな判断の毎日です。

もしかしたら、大きな事より、小さな事を選ばなければならない時もあるでしょう。

外見からみたら、目立つこと、大きな事を選んでしまいかねません。

いつも、判断を神さまに仰ぎましょう。

これは、自分のプライドなのか、みんなに良く思われようとして選んではいけないか、など。

本当に判断は難しいです。

その時は、回りにイエス様を探してください。

イエス様は、姿を変えて、必ずそばにおられます。

そして、判断の前に、少し立ち止まって考えてください。

自分中心の考えから離れ、神さまの心と、隣人を中心に考えてみましょう。

明日も、世界の指導者のために祈りましょう。

神さまが、彼らの心に正しい判断をお与えくださいますように。

本当に大切なものは何か、神さまの心を心として判断し、平和に向かうことができますように。



お盆を過ぎ、朝晩は少しひんやりしてきました。

暑い夏から解放されて、やっと心地ついて、新しい何かを始める気が起きてくるようです。と言いたいところですが、現実・・・

この暑さの中でも、東京電力福島第一原子力発電所の廃炉作業は続いています。

毎日 4,500 人もの作業員の方は防護服の重装備で、高線量の作業現場で働いておられます。

第一原発は東京ドーム 75 個分に相当する広大な敷地で、2051 年の廃炉完了に向けた作業が進んでいます。(おそらく 2051 年までには完了しないと思われます。)

1号機では現在、原子炉建屋3階の燃料プールにある使用済み燃料392体の取り出しに向けて、建屋を覆う大型カバーの設置工事が進んでいます。1号機は2011年3月12日の水素爆発で建屋上部が吹き飛んで鉄骨がむき出しになっており、使用済み核燃料を取り出す作業で放射性物質を含む粉塵が空気中に飛び出さないよう大型カバーで覆う作業です。



このような過酷な作業が、まだ数十年続くのだそうです。

地震や災害の多いこの日本列島にまだ、33基の原発があり、政府は、脱原発から再稼働、稼働期間の延長、増設などに舵を切って、原発の最大限の活用をしようとしています。

より厳しい対策が講じられたとしても、どのような非常事態が起こるかわかりません南海トラフの巨大地震も数十年後に確実に起こるのでしょうか！！??

その時に福島の二の舞とならないためには、どうしたらよいか、後世の人々から感謝されるような対策を今の私たちが

真剣に考えて、声を上げていかなければならないのではないのでしょうか？

ことが起こる前に、安全安心の神話から抜け出して真剣に、自分のこととして考え、行動していきたいと思えます。と言っても、私のできることは、皆さんに福島の実情をお知らせすることぐらいですが、できるだけ多くの方に知っていただきたいのです。

一つの事故がどんなに長い年数(数十年~100万年単位)、どんなに多くの人々(自然界の苦ししみも含めて)に苦しみを強いるかを！！



わたしの召命物語

奇跡の連続 一事務局長として—

高校生、中学生を相手に、17年間も教員生活が続いたのは奇跡です。しかも、生徒指導にかかわって、私は心の底から充実感を覚えていました。その時に、修道会の長上から「事務職員として働くように」と言われました。経理の経験なんてないに等しい私に、そんなことができるのかと心配になり、「お断りす

る自由がありますか？」と尋ねました。長上の答えは、まさかの「いいえ」でした。「自分にとって、今、任されている生徒指導部長の仕事が私の一番心にかかった働きで、神様の御心にかかった働きだと思います。」と言いましたが、やはり修道会を通して示される神様のみ旨に「はい」と答えるのが、誓願生活の根幹であり、自分のやりたいことをするために修道生活を選んだわけではないことを思い返して、長上に「はい、お受けします」と答えました。

非常勤で小学校、中学校、高等学校の宗教の授業を担当しながら、また専任に返り咲いた時も、修道会の地区会計を7年間ほど兼任してやってはいました。しかしそれは学校の会計とは全く違う性質のものでした。

事務室に配属されて1年間は見習のような立場で、大きな責任もなく過ごしていました。

1年後3月の決算が終わり、4月の初めに当時の事務局長のシスターから、「そろそろバトンタッチをしましょうね」と言われました。「え～え、私が事務局長の役を引き受けるんですか？」、「そのようですよ！」「ちょっと待ってください！！」この会話の2,3日後に、そのシスターは脳梗塞で倒れてしまわれたのです。なんの引き継ぎもありませんでした。集中治療室に呼ばれ、学院の印鑑や重要書類のあるところだけを知らされましたが、その後は彼女は何も答えられなくなってしまわれました。

学校会計そのものが全く分からない私に、理事会・評議員会での決算報告ができるはずがなく、途方に暮れるとはこういうことだと実感しました。幸い、会計士の先生などの指導に助けられて、船出ができました。本当にどんなに多くの人々が私を助けてくださったことでしょう。奇跡の連続でした。そばで一緒に働いているシスターが、私には「動物的勘があるね」と言っていました。本当に期限直前に提出すべき書類が見つかるのです。間に合うタイミングで！！その期限に間に合わなければ億単位の補助金が入ってこなくなるという重大な書類もありました。最初の予算決算の時には、会社の社長さんや経理責任者などが、年度末によく自死する記事がありました。私もその気持を味わいました。このような人たちの苦しみ、不安、そして自殺を選ぶ気持ちなどを味わって、「私はそのための奉獻生活者なのだ。この職種の人々、社会の大部分の労働者の声として、神様に捧げる使命があるのだ」と、改めてこのミッションを受け取りなおし

ました。

そして幸せな 29 年間の事務局生活を全うしました。
まさかこのような人生を送ろうとは想像もしていませんでした。
神様の恵みの奇跡を賛美いたします。



【帰天のお知らせ】

マリア・アグネス 田邊豊子様 (89 歳)

マリア 小森キヌエ様 (98 歳)

マリア 竹谷ミサエ様 (81 歳)

謹んでお知らせします。どうぞ心を合わせてお祈りください。

【9 月・10 月の行事予定】

9 月		10 月	
1(月)	すべてのいのちを守るための月間	11(土)	備後協働体幹事会
14(日)	十字架称賛 敬老会 ミカエル金神父様霊名のお祝	12(日)	広島地区宣教司牧評議会
15(月)	広島教区の日	19(日)	世界宣教の日(献金)
28(日)	世界難民移住移動者の日(献金)	26(日)	14 時～墓地ミサ

【編集後記】

戦後 80 年のこの夏、中国東北部-かつて日本の傀儡国家だった旧満洲-の四つの街、長春、瀋陽、大連、旅順を訪ねた。動機はいろいろある。映画、歴史、文学作品、それから若い大連生まれの友人のこと…。痛みを負った土地を訪ね、そこでいまの自分に繋がる何かを感じとる。旅する直前に、清岡卓行の『アカシヤの大連』を 40 年ぶりに読み返した。植民地下の大連、ある広場の一角に小さな教会がある、40 年ぶりに訪ねたところ、外観は保たれ図書館になっていた。さらにそれから 40 年後、私が確かめたところ、ケンタッキーになっていた。それでも、歴史的建造物のプレートがちゃんと掲げられていた。(S・N)